

## 理念を持った競争力ある(農業法人)農家を育成し 「農業経営」が抱える課題を解決に導く

兒玉 敏

農業の持続的発展に貢献するという理念の下、農業をビジネスの観点で捉え、現実的な課題を解決する。農業法人の優秀な若手を育成し、次世代の農業を見据えた事業を展開する。法人の 定款にも定められている目的

第1条 この組合は、組合員の農業生産についての協業を図ることによりその**生産性を向上**させ、組合員の**共同の利益を増進**するとともに**地域づくりの推進**を図る活動を目的とする。

### 事業について

現在、農業に関する問題としては、後継ぎが確保できずに農家が減少する「高齢化問題」と、食料自給率の低下につながる「耕作放棄地問題」が取り上げられますが、学者や評論家が議論するこれらの問題は、農業経営 とは直接関係がありません。経営的観点でみれば耕作放棄地と向き合うより現在の有能な土地を活用しコストに見合う経営感覚を持つことが大事です。主体的にリスクをとって行動に責任を持たなければ大きなリターンは期待できません。消費者の意識を持ち、流通の意見に耳を傾けながら販路を開拓し、農業法人としてビジネス感覚に秀でた次世代を担う若手人材を育成する必要があります。

求められる人材とは、

現在の農業ビジネスは農産物の生産のみ専心していればよいのではなく、利益率を高められる人材を多く雇用し、次の領域を攻めるフェーズに入っています。グローバルな戦略を考えるためにも成長志向の強い人の活躍が求められます。既に、植物の生理を厳密にコントロールする農業工学の博士号を持つ人材を採用する農業法人もあります。農業の専門知識を持った若手人材が必要なのです。

### 今後の展望

農業維持発展のために、若い農業経営者の育成に力を注ぎ、能力ある人材の確保に農業法人自らが将来の可能性(継続維持)の場をプレゼンスする。農業をマネジメント(経営)したいという人、また、現場で働きたいという人に専門知識の取得や生産性向上のために資金を投入し、過疎の高齢者にいくら投入しても将来、何の利益も もたらしません。農業界を発展させるといふ純粋な意義でこころした取り組みにいち早くシフトしたところが生き残り、自らの課題を自らで解決することが重要です。すでに農業法人にも格差が生まれて来ています。農業維持発展のために知恵を出した地域が残り、それ以外は淘汰されていくでしょう。

平成二九年五月二十日